

9つの資質・能力を育成する「大岡の時間」

## 神奈川県横浜市立大岡小学校

神奈川県横浜市南区大橋町 3-49

電話番号：045-711-0818

HP アドレス：http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ohoka/

### 学校や地域に関する情報

#### (1) 学校規模

児童数 579 名、教職員数 33 名、学級数 19 学級 (平成 22 年 4 月現在)

#### (2) 学校の教育活動の特色

「ともに学びをきりひらいていく児童の育成」という学校教育目標の実現へ向け、教師が児童たちに育てたい資質・能力を明確にもち、目の前の児童たちの思いや実態をとらえ、児童たちと共に学びを創り上げていくようにしている。

#### (3) 地域の特色

横浜市の中心部よりやや南に位置し、住宅地と商業地が混在したエリアである。交通の大動脈である鎌倉街道や桜の名所・大岡川などのほか、市内最古の寺院である弘明寺観音や若宮八幡宮などの歴史スポットも点在する。弘明寺観音の門前に発達した弘明寺商店街は、現在も大勢の人で賑わっている。

最後まであきらめずに問題解決する姿を目指して、「『ひと』『もの』『こと』と粘り強くかかわる」と設定した。

#### 2. 育てようとする資質や能力及び態度

学校教育目標と、「目指す児童像」をもとに、9つの「単元で育てたい資質・能力」を設定した。

目指す児童像である「求め続ける児童」に迫るための資質・能力として、「問題を把握する力」「解決を構想する力」「構想を実行する力」の3つ、「創り上げる児童」を目指して、「分析的に思考し判断する力」「的確に表現する力」「学びを振り返る力」の3つ、「共に生きる児童」を目指して、「自己や他者を理解し、共感する力」「豊かに感じ取る力」「学びや生活に生かす力」の3つ、合わせて9つの資質・能力を設定している。

#### 3. 内容

本校では、適切な内容に基づいて、毎年、学級ごとに単元開発を行っている。内容の拠りどころになるのは、「単元づくりの内容的価値」として学校で定めている、「地域」「環境」「福祉」「生活」「生命」「文化」の6つである。目の前の児童たちの思いと教師の願いを元に、単元での学びを通して学びとる内容を明らかにした上で、単元を立ち上げるようにしている。その際、前年度までの学びの履歴を考慮することで、幅広い内容を通して学べるように配慮している。

#### 4. その他の特色

学級カリキュラムを採用している本校では、学級独自の学びを追究する総合的な学習の時間の創造を目指している。全体計画や、内容と資質・能力等を表した「学びを創り出す指針」を

## I 総合的な学習の時間の全体計画

### 1. 目標

学校教育目標である「ともに学びをきりひらいていく児童」を目指して、「探究的な学習を通して、『自ら学びを創り、自分の生き方を考える』」ことを目標の中心に置いた。また、本校の目指す児童像である「求め続ける児童」「創り上げる児童」「共に生きる児童」の3つを「主体的、創造的、協同的」という言葉で表した。さらに、児童自身が、活動目的を明らかにして、

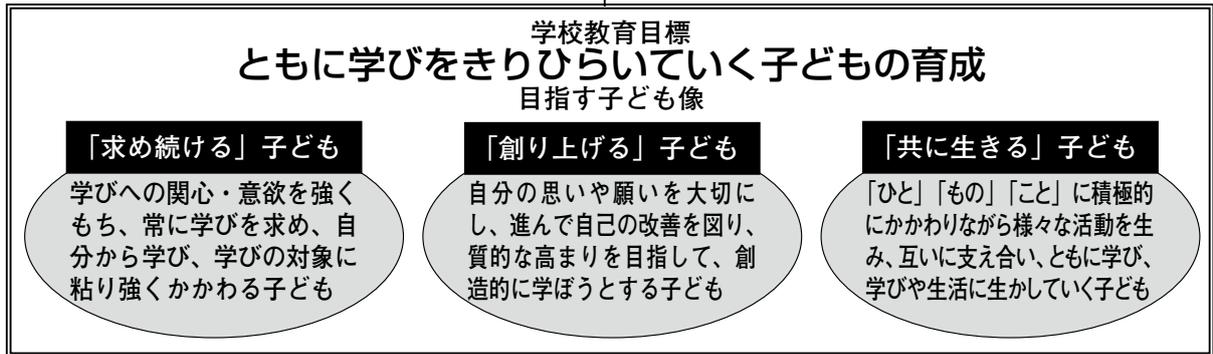
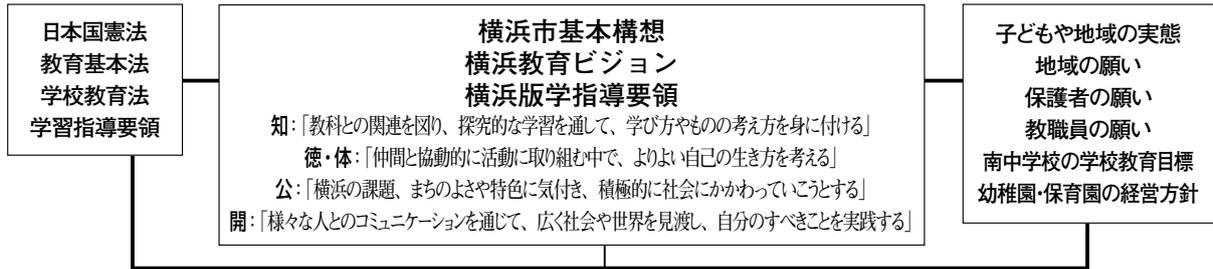
もとに、「年間活動計画」を作成しているが、4月の第1版作成後も、児童の実態や学びの状況を考慮して、随時修正を加えている。「年間活動計画」は、総合的な学習の時間と教科等との関連を考える上でも有効な資料となっている。

実際の単元開発に当たっては、教師の「勘」・「知恵」・「技」を働かせている。単元をデザインする力が「勘」、素材の価値を分析する力が「知恵」、学びを見取り授業をコントロールする力が「技」である。この3つを活用することで、児童たちにとって価値ある学びを創り出すことができる。また、この3つの力を理解し実践していくことは、教師の力量形成にも寄与している。

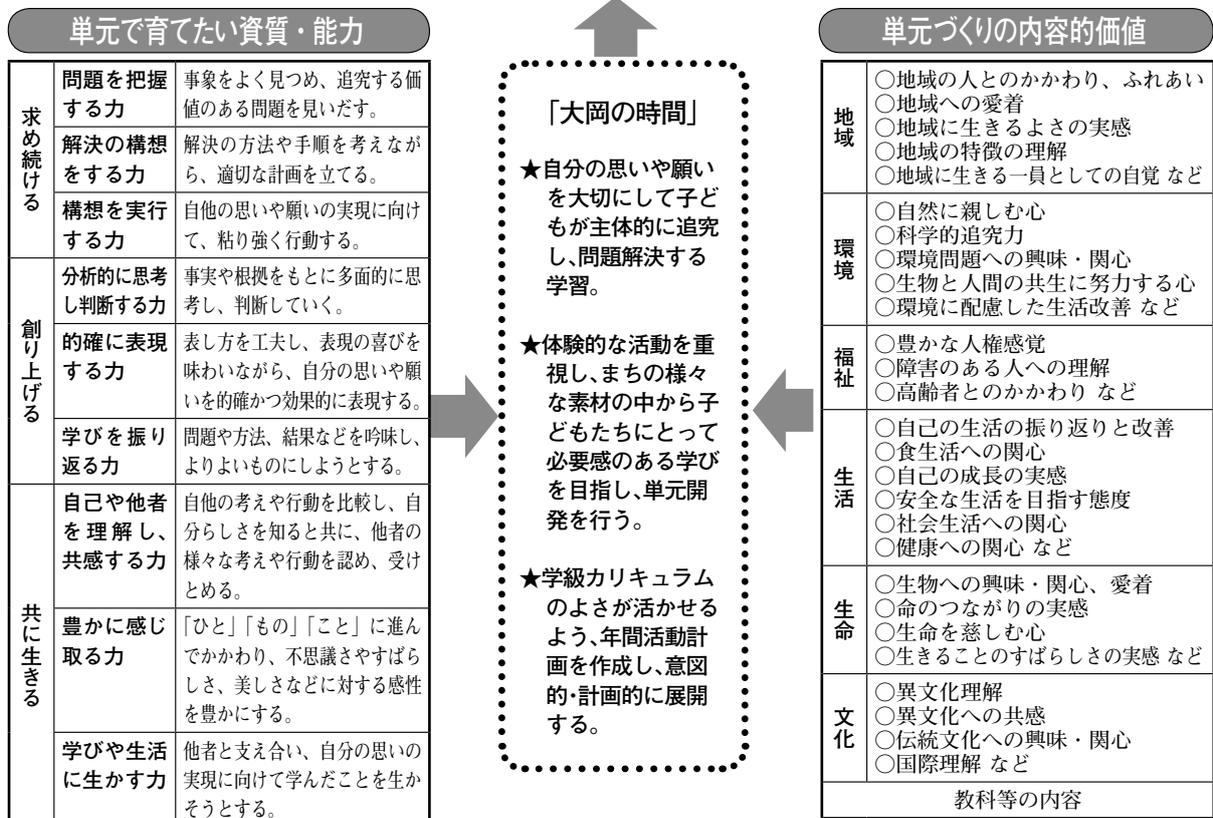
学びを見取ることに関しては、単元ごとの評価規準である「学びの規準」を作成し、児童たちの学びを見取るとともに、授業改善にも活用している。「学びの規準」は、9つの「単元で育てたい資質・能力」を、単元の学習内容に合わせて、具体的な児童の姿として表したものである。

問題解決的な単元開発、「学びの規準」の設定と運用という2点に重点を置いて、実践を進めているところである。

# 横浜市立大岡小学校「大岡の時間（総合的な学習の時間）全体計画



「大岡の時間」の目標  
探究的な学習を通して、「ひと」「もの」「こと」に粘り強くかかわりながら、主体的、創造的、協動的に問題を解決し、自ら学びを創り、自分の生き方を考える子ども



※「全体計画」に加えて、学年ごとに作成している「学びを創り出す指針」、学級で作成する「年間活動計画」、単元ごとに作成する「学びの規準」を基に、学習活動を計画している。

## II 総合的な学習の時間の実践事例

### 第4学年 「全国タウンマンホールうかがいたい」

#### 1. 年間指導計画

本年度は、一年間に二つの単元を設定し追究していくこととした。一つ目は、地域の河川のことや、上水道・下水道などを探る「大岡ウォーター探検団」の単元。その活動の中で、マンホールに焦点をあてながら、二つ目の単元「全国タウンマンホールうかがいたい」を立ち上げていく。身近なものを追究する単元から始まり、児童の興味関心から調査対象を全国に広げ、デザインの由来を取材する活動を行う。二つの単元を通して、自分たちの住む地域をクローズアップしていけるような活動を行っていきたい。身近なまちを見つめ直していくことができる児童の育成を期待し、年間の活動を行っていく。

また、社会科を中心として各教科等との関連を図っていききたい。特にマンホールという「もの」やそこに描かれたデザインは、第4学年の社会科の内容である「水道」「消防」「自分の住む県」の学習と、広く結び付けて活動することができると考えた。

●●/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	時間数
こたわり 学習	大岡ウォーター探検団 40時間			全国、マンホール伺いたい 62時間									
教科等	地図帳を使ってみよう④ 役割は	ゴミほどこへ④	水も脈を調べよう④下水道の		もしも火事が起きたら④消 火栓マンホールを見せても らおう	神奈川県をもっと知りたい④	まちの安全点検④	昔は海だった④	④	神奈川県伝統工芸④			

#### 2. 単元計画

##### (1) 単元設定の理由

5月、児童は、学校の正面を流れる大岡川の護岸にある穴に関心をもち、その穴はまちにたまった雨水を逃がす「出口」であることを学んだ。そして、雨水の「入口」である雨水ますや、下水道につながる「マンホール」に関心をもつようになった。「ふたには面白いデザインがある」という児童の姿を見て「マンホールのデザイン」の単元化を考えた。

マンホールという素材は、地域の特色をよく表していて、自治体ごとに多種多様なデザインがあるという面白さがある。また、一つの道路にもたくさんのデザインがあり、用途が区別されていたり、滑り止めに使われていたりという機能面の工夫もあり、まちづくりにつながる側面もある。児童が、改めて「まち」を見つめる学びができる素材であると考えた。

さらに、様々なマンホールのデザインを集めて、それを分類・整理していく活動からは、「分析的に思考し判断する力」、また、それぞれのデザインに込められた思いを読み取ったり、そ

れぞれの地域の人から聞きとったりする活動では、「豊かに感じ取る力」など、本校の学びで児童に身に付けさせたい9つの資質能力が十分に身に付くと判断し、単元として設定した。

##### (2) 単元の目標

- マンホールに描かれているものや、描かれている理由について詳しく知りたいという思いの実現に向けて、解決の見通しを立て、調査を行うことができる。
- 様々な市町村のマンホールを収集・分類したり、取材したりして、デザインに込められた思いや意味を的確かつ多角的にとらえる力を身に付ける。

##### (3) 単元の評価規準

- マンホールのフタのデザインに関心をもち、様々なデザインを調べる意欲をもつ。
- マンホールのふたのデザインには、単純に有名なものが選ばれているのではなく、そこに住む人・観光客・仕事で使う人にとって意味があることが分かっている。

(上記規準など、「学びの規準」を詳細に作成し、評価に生かしている。)

## 学びの展開 (72 時間扱い・大岡 62 時間 社会 10 時間)

「川の大きな穴のひみつをさがろう！」からみえた児童の興味・関心

大岡川の穴は、雨水の流れ込む場所です。地下にはそのための通路があるので、それにそって、マンホールもたくさんあります

マンホールの種類がたくさんあった。「雨水」「お水」など分けられていたよ

横浜市以外のマンホールにも、面白いデザインがある

マンホールのフタに橋やが描かれていた。一体何?

◎社会科の学習と関連して

- ・47 都道府県の位置 ・神奈川県各市町村の特徴
- ・マンホールと下水道の役割を調べよう
- ・消火栓マンホールの中はどうなっているのだろう

全国の市町村マンホールデザインを集めよう 25 時間

マンホールのフタには何が描かれているの

○マンホールのデザインについて知っていることを伝え合い、学習計画を立てる。(3 時間)

○調査を行い、写真やスケッチで様々なデザインを収集し整理する。(6 時間)

○収集・整理したマンホールのデザインを紹介し合い、考えたことを伝え合う。(4 時間)

場所ごとにいろいろなデザインがある「花」や「木」が多い。物語の一場面

でも、何でデザインされているんだろう。必要あるの?

○マンホールにデザインがある理由について予想し、調べるための計画を立てる。(6 時間)

○調査を行い、分かったことをまとめる。(4 時間)

「有名」だけではなく、その場所が一目で分かるようなものが採用される

観光客にも市民にも楽しんでもらうため。下水道のイメージアップ

○活動のふりかえりを行う (2 時間)

どうして横浜はベイブリッジになったの?他に有名なものがたくさんあるの

自分たちも、マンホールのデザインを考えてみたい

横浜のマンホールデザインを追究しよう 15 時間+社会 10 時間

○横浜のマンホールについて知っていることと疑問を整理する。(1 時間)

○調査の計画を立てる。(2 時間)

どうして横浜は、このデザイン?まちのイメージに合っているのかな

①フィールドワーク ②町の人や身近な人にアンケートをとる ③市役所の方に聞く ④他都市との比較

○身近なまちや、横浜港周辺を再調査し、「まちの PR」になっているのか考える。(6 時間)

○まちの人や身近な人に、アンケートを行い、横浜のイメージをさぐる。(3 時間)

- ・横浜のシンボルは?

○マンホールを管理している人に話を聞く。(1 時間)

- ・デザインの由来について
- ・決めたときのイベントについて

○神奈川県内の他の市や町のマンホールデザインを調査し、地域の特徴をとらえる(社会 10 時間)

○調べたことを話し合う (2 時間)

私たちの予想より、ベイブリッジをほこりに思っている人は多い。

- ・どのデザインも「海」に関係する。

「みなとまち」という人々のほこりイメージを、マーク(シンボル)にしている。

大岡のまちで大切にされているものを見つけ、デザインにしてみたい。

大岡のまちにあうデザインを考えよう 22 時間

○デザインを考える上で何を大切にすればよいか考え、完成までの見通しをもつ。(1 時間)

○町の有名なものやイメージをつかむために、インタビューや調査の計画を立てる。(1 時間)

町に住んでいる人働いている人

このまちに住んでいる人は、地域の何を大切に思っているのだろう。身近な人に聞いてみたい

他の町から来ている人

買い物にきたり、観光にきたりする人は、どう思っているのだろう

南区のホームページや、観光案内

ホームページや観光案内を見た。春は、桜のパフレットがいっぱい。区役所の人にも聞きたい

○まちの人や身近な人に、アンケートを行い、大岡のまちのイメージをさぐる。(4 時間)

○市役所のホームページの情報や、地域の人から、大岡のまちの特徴を知る。(2 時間)

○調査結果を伝え合い、大岡のまちの特徴や大切にされているものを整理する (2 時間)

むかしの大岡川の姿。たくさんの人がなつかしんでいたよ

桜がそんなに有名ななんて知らなかった。でも、東京都も同じだ。大岡らしくするには?

○身近なまちを表すにはどのようなデザインがよいか、調査結果や学んだことをもとに話し合う (2 時間)

やっぱり桜だね。横浜でもとても有名なんだよ ・大岡川はやっぱり魅力的。小さい頃遊んだな。

・弘明寺観音は、とても遠くからもお参りに来るくらい有名・立派な商店街

○アイデアを持ち寄り、デザインの内容を決定する。(4 時間)

○あらためて大岡のまちを見つめなおして感じたことを話し合う。(2 時間)

○作成したデザインを使って大岡のまちをアピールするパンフレットをつくる。(2 時間)

○活動のふりかえりを行う。(2 時間)

### 3. 学習活動の実際

#### (1)「全国の市町村マンホールデザインを集めよう」の実践から



「まちにあるマンホールには、面白いデザインが描かれている。他のまちも同じなのかな。」

そんな児童の疑問から、活動が始まった。児童は、全国のマンホールのデザインに興味をもち、収集活動を行った。この小單元には、「デザインに込められた思いや願いをとらえることができる。」という資質・能力を児童に身に付けていってほしいという、教師の願いがあった。

様々なマンホールのデザインを収集し、その特徴を「木や花」「伝説」「建物」など分類していく学習で、児童は「マンホールのデザインはその地域の有名なものが選ばれている。」



ということに気付いた。しかし、デザインの面白さだけに気を取られて、作り手の意図に向かう児童がいなかった。

それを修正していくためには、市役所の方やマンホールをつくっている会社の方に電話をかけて生の声を聞いたり、様々な地域出身のかたの話を聞いたりするなど、人とかかわる活動が必要だろうと考えた。そのために、次の一時間の本時目標を「デザインを分類・整理して考えたことを話し合う中で、マンホールデザインには地域の特色が表れていることを理解するとともに、デザインが施された理由に関心をもつことができる」として、授業に向かった。児童は、それぞれのまちで一つ一つデザインが違うことを理解し、面白さを感じていた。その



ため、インターネットや親せきなどを頼りにマンホールデザインの収集を続けていきたいという願いがメインとなっていた。ここで、デザインの収集だけでなく、その意味を考えてほしいと考え、特徴的なデザインである「アンパンマン」や「はし・茶碗」を提示した。

すると、「全国で有名なアンパンマンがどうしてその町のマンホールなのか。」「はし・茶碗は食べ物に関係するのに、どうして足で踏まれるところにデザインするのか」など、容易には解決できない問題が出てきた。そして、実際にそのまちの役所に電話して、どうしてそのデザインなのか聞いてみたいという発言も続いた。デザインが施された理由に関心をもち、実際に人に聞いていこうという学習の方向付けができた。

これまで、A児は北海道函館市のデザインに「イカ」が採用されていることを、ただ「かわいいイカちゃんです」と紹介していた。しかし、追究の深まりとともに、函館市役所の方に「イカは函館の宝だから」という話を聞き、イカが有名であることよりも、函館の人の自分のまちを思う気持ちを、感じ取るようになっていった。



この小単元の振り返りでは「歩き方が変わった」という児童の言葉が聞かれた。買い物や旅行などで違う町に行ったときに、マンホールのふたのデザインや、ロゴマークなどに目がいくようになったという児童が多かった。さらに、なぜそのデザインなのかという意味を考えるようになったという意見が多くあった。一つのデ

ザインに注目し、それを読み解こうとする児童の力が育ってきたと考えている。

さらに、児童は、身近な横浜市のマンホールのデザインに関心を寄せるようになってきている。

## (2) 「横浜のマンホールデザインを追究しよう」の実践から



この小單元では、横浜市のマンホールデザインについて調査した。

まず、学級全体で横浜市のマンホールのデザインを観察し

直した。その結果、「海に関係がありそうだ。」

「横浜市は海が有名なのかな。」という意見があがった。児童の住む南区には海がないため、横浜市＝海というイメージは意外だったようだ。そこで地域の人へインタビューを行い、それを整理した。結果は、「横浜といえば、ベイブリッジ」と答えた人が一番多く、マリントワー、カモメなど、海に関係するイメージをもつ人が多いことをつかむことができた。「港」と答えた人も多かったことに注目し、すべてが「港」というイメージにつながるということに気付くことができた。また、横浜には、港や海に関係するデザインのマンホールが他にもいくつかあることが分かり、「横浜市といえば港というイメージをもつ人が多く、観光客や市民に親しまれている。」と、まとめることができた。

また、社会科では、神奈川県他市町村のマンホールデザインを教材とした。横浜市のマンホールを調査していたことで、「他のまちはどうなのだろう」「どんなデザインがあり、まちはどんな特徴があるの」と意欲をもち、学習にのぞんでいた。社会科の小單元目標である「県（都、道、府）の位置や地形、土地利用や交通網の様子などについて、地図などの資料を活

用して調べ、県（都、道、府）の特色を考えるようにする。〔指導要領内容(6)ア、イ、エ〕を目指した学習活動を行うことができた。マンホールのデザインを切り口に、児童は各市町村の特徴をとらえ、自分の住むまちと比べながら考えることができた。

児童は、自分の調べたまちのことを発表し合う中で、「同じ神奈川県なのに、場所によって特徴が全然違う。」と振り返ることができた。また、マンホールのデザインが、そこに住む人のイメージに合ったものであることなどをつかむことができた。一方、「やっぱり大岡の町にはベイブリッジは合わない。もっと自分たちのまちを表すものを考えてみたい。」という意見も出るようになった。

そこで、大岡のまちに合うマンホールのデザインを考えることを通して、改めて自分たちのまちを見直す活動へと発展させていった。

## (3) 「大岡のまちに合うデザインを考えよう」の実践から

この小單元を、單元全体のまとめに位置付けようと考えた。そのために、児童に今まで学んだことを生かして、自分たちでデザインを考えていくという活動を行うことにした。

マンホールデザインの多くが、そのまちの特徴と結び付くことや、それを端的に表すデザインが必要であることを重要なポイントとしておさえ活動に取り組んだ。

この活動を通し、改めてまちを見つめることができたとともに、まちに愛着をもつ地域の人々の気持ちにふれることができた。自分も、まちに住む一員だということを感じ、高学年での学習につなげることができたと考えている。

